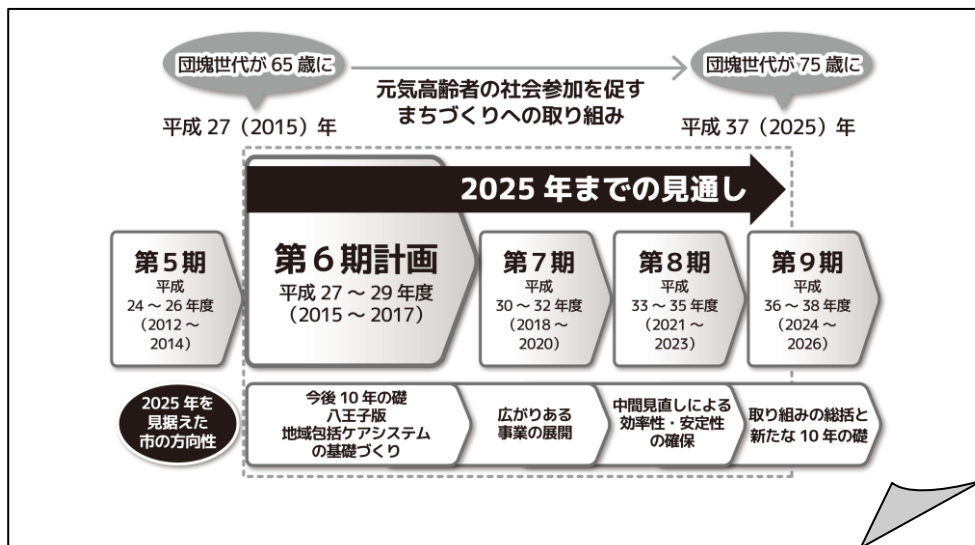


「八王子版地域包括ケアシステムの深化・推進」について

1 現状と課題

市では、団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年を見据え、第 6 期から第 9 期までの計画を「地域包括ケアシステム推進プラン」と位置づけ、第 6 期計画は、その最初の計画として地域包括ケアシステムの基礎づくりを進めてきました。本市の高齢化率は今後も上昇することが見込まれ（平成 29 年 4 月現在 25.7%）、新たな課題への対応が求められるとともに、これまでの取り組みを強化する必要があります。



- (1) 地域包括システムの理解や協力など市民への周知が不足している
- (2) 医療・介護の専門職、多様な主体間での連携の取組のさらなる充実
- (3) 地域包括システムの進捗状況や評価がわかりにくい

2 第 7 期計画における深化・推進の視点

第 7 期計画では、第 6 期計画（地域包括ケアシステム推進プラン）の考え方を踏まえ、豊かな経験と能力のある高齢者が社会に貢献しやすく、地域で役割を持って活動できるようなまちづくりを推進するため、以下の視点に基づき、地域包括ケアシステムの広がりのある事業の展開を図っていきます。

(1) 地域包括ケアシステムの普及啓発

地域包括ケアシステムの深化・推進には、地域で活動する医療・介護の事業者のほか、住民組織など地域の皆さんの理解や協力が欠かせません。それには、地域包括ケアシステムとは何か、自分で何ができるのか等、一人ひとりの意識を醸成し、つなぎ合わせていくことが重要です。

市民、事業者、行政が一体となって、誰もが持てる力を発揮して活躍できる地域づくりを進めていきます。

【第 6 期計画での具体的な取り組み例】

O2 地域包括ケアシステムの周知 / 49 広報の活用・ホームページの充実 など

【第6期計画策定後に開始した具体的な取り組み例】

■取り組みの見える化（インターネットを活用した地域資源マップの構築、住民主体活動のPR動画の作成、住民主体活動のシンボルマークの作成） など

(2) 多様な主体の連携と協働

安全・安心に在宅生活を送るためには、医療や介護等の専門職、NPO、社会福祉法人、インフォーマルな生活支援サービスを提供する団体など、多様な主体の連携・協働が必要です。

地域ケア会議によるネットワーク形成などにより、これら多様な主体が連携・協働しやすい環境づくりをすすめることで、地域での暮らしを包括的に支援します。

【第6期計画での具体的な取り組み例】

39 D-Net との連携 / 40 認知症疾患医療センター（都指定）との連携 / 62 地域ケア会議の実施 / 69 医療・介護関係者会議の参加・開催 / 71 在宅医療・介護連携に関する介護支援専門員向け研修の充実 / 92 生活支援コーディネーターの配置 など

(3) 地域包括ケアシステムの評価

地域包括ケアシステムを構成する住まいを中心とした保健・介護予防、生活支援、医療、介護の5つの要素を踏まえ、地域包括ケアシステムの構築状況の把握と評価を行います。また、市が行う多様な施策について、地域包括ケアシステムに関連した取り組みであることを、わかりやすく周知します。

